

第2期 岩見沢市社会教育中期計画

〔令和2年度～令和6年度〕

岩見沢市教育委員会

目 次

第1章 序論

〔1〕計画策定の趣旨	1
〔2〕計画の構成と期間	1
〔3〕社会教育をめぐる現状と課題	2

第2章 総論

〔1〕計画の基本目標	6
〔2〕計画の体系	6
〔3〕計画の体系図	7

第3章 各論

I 学習活動の推進

1 心豊かに育てる家庭教育の支援を充実します ～家庭教育・子育て～	8
施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	9
2 青少年の健全育成のための学習活動を推進します ～青少年教育～	11
施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	12
3 社会に貢献するための学習活動を推進します ～成人教育～	14
施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	15
4 生きがいを持ち人生を豊かにする活動を推進します～高齢者教育～	16
施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	17

II 芸術・文化活動の推進

1 豊かな心を育む芸術・文化活動を推進します	18
施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	19

III スポーツ活動の推進

1 健康や生きがいづくりのための生涯スポーツを推進します	21
施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	22

目 次

2	競技力の向上を図るスポーツ活動を推進します	24
	施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	25
IV	図書活動の推進	
1	「地域の知の拠点」としての図書活動を推進します	26
	施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	27
V	社会教育環境づくりの推進	
1	生涯にわたり学習できる環境を整備します	29
	施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	30
2	学習活動をサポートする人的な環境づくりを推進します	31
	施策の方向・具体的な施策・評価指標・該当する事業	32
■資料編		
1	諮問書	33
2	答申書	34
3	計画策定経過	35
4	社会教育委員名簿	36
5	評価指標	37
6	令和元年度実施アンケート調査	38

第1章 序 論

〔1〕計画策定の趣旨

人口減少や高齢化をはじめとする急速な社会経済環境の変化や取り組むべき課題の複雑化の中にあって、市民の主体的な参加による持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、社会教育はこれまで以上にその役割を果たすことが期待されています。

「人生100年時代」、「超スマート社会（Society5.0）」にむけて社会が大きな転換期を迎える中、文部科学省は、国民一人一人が生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習の成果が適切に評価され、それを生かして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会実現のための取り組みを進めています。

平成30年12月に中央教育審議会がまとめた「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」は、人口減少やコミュニティの衰退を受けて、住民参画による地域づくりがこれまで以上に求められる中、「『社会教育』を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」が一層重要であるとしており、そのうえで、新たな社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育」を提示しています。

岩見沢市教育委員会では、めまぐるしく変化する社会経済情勢に対し、市民自らが主体となって活動し、地域づくりを進めるため、平成27年3月に「岩見沢市社会教育中期計画（平成27年度～31年度）」を策定しました。

本計画に基づき、市民の学びの拠点である「岩見沢生涯学習センター『いわなび』」を中心に青少年を対象とした「いわみざわチャレンジスクール」、幅広い年代を対象とした「いわみざわ市民大学」、高齢者を対象とした「岩見沢市ことぶき学園」、「北村寿大学」、「栗沢長寿大学」などに代表される学びの機会を提供してきました。このほかにも、様々な担い手が、市民の学びの場や機会の創出に取組み、その成果を活かす活動を進めています。

こうした背景のもと、本計画が最終年度を迎えたことから、次の5年間を見据えて、社会経済情勢の変化をとらえ、市民の学びとまちづくり、地域づくりがつながるよう「第2期社会教育中期計画（令和2年度～令和6年度）」を策定するものです。

〔2〕計画の構成と期間

この計画は、本市における社会教育行政の推進に当たり、「第6期岩見沢市総合計画（2018年度～2027年度）」との整合性を図りながら、社会教育の現状と課

題を踏まえ、5つの推進区分のもと基本方針及び施策の方向を示しています。

この計画の期間は、令和2年度から令和6年度までの5か年とします。

なお、計画の推進に当たっては、施策の実施状況や効果等の評価を行うため、各項目に目標達成の目安となる「評価指標」を設け、年度ごとにその成果について検証するとともに、施策に反映させるものとします。

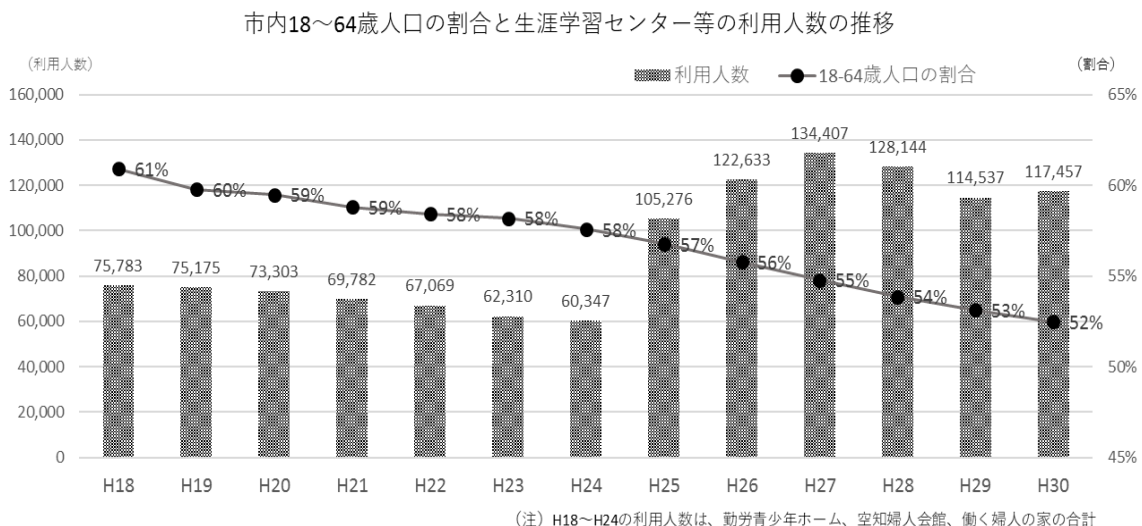
〔3〕社会教育をめぐる現状と課題

少子化による人口減少や急速な高齢化は、岩見沢市のみならず、全道的、全国的に進んでいます。それに伴い地域経済の縮小、医療や介護分野での需要の拡大など、様々な課題に直面しています。

社会教育の分野においては、地域の伝統行事等での担い手の高齢化やボランティアの減少など、様々な課題を抱えています。

また、人生100年時代と言われる長寿化の中で、新たな社会の姿としてSociety5.0の実現が提唱されています。Society5.0とは、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、すべてのモノと人がつながり、様々な知識や情報が共有されることから、様々な課題が解決され、ひとり一人が快適で活躍できる新たな社会といわれています。

図1：市内18～64歳人口の割合と生涯学習センター等の利用人数の推移



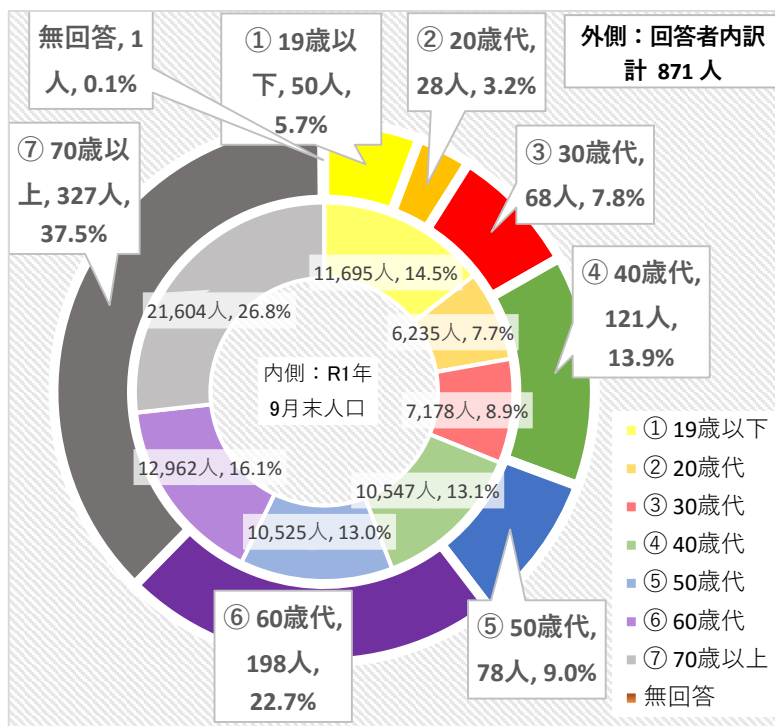
社会教育は、社会教育法において「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレ

第1章 序 論

クリエーションの活動を含む。)をいう。」と定義されています。学校教育以外のあらゆる学びの機会を対象とするもので、市民一人ひとりが生涯にわたって様々な学びと出会い、その成果を活かす実践の機会を得て、人とつながり、ときに支え合う活動へと結びつくことが社会教育の魅力であり、Society5.0 が描こうとする未来社会を実現する上で、果たすべき役割を担っています。

当市における平成18年の市町村合併後の18歳から64歳までの人口割合と生涯学習センターの利用人数の推移をみると、平成25年度の「岩見沢市生涯学習センター『いわなび』」オープン以来、利用人数が大きく伸びていますが、その一方で、社会教育活動の担い手として期待される18歳から64歳までの人口の割合は下がり続け、平成25年から平成30年までの5年間で5ポイント低下してます。

図2：令和元年度実施アンケート調査 回答者年齢グラフ



また、生涯学習センター利用者に対するアンケート調査（令和元年10月18日～10月31日に実施）では、令和元年9月時点の本市の年代別人口の割合と回答者の年代別割合には開きがあり、60代、70代の回答が半数以上を占めています。生涯学習センターの利用者の高齢化が進んでいることが特徴となっています。

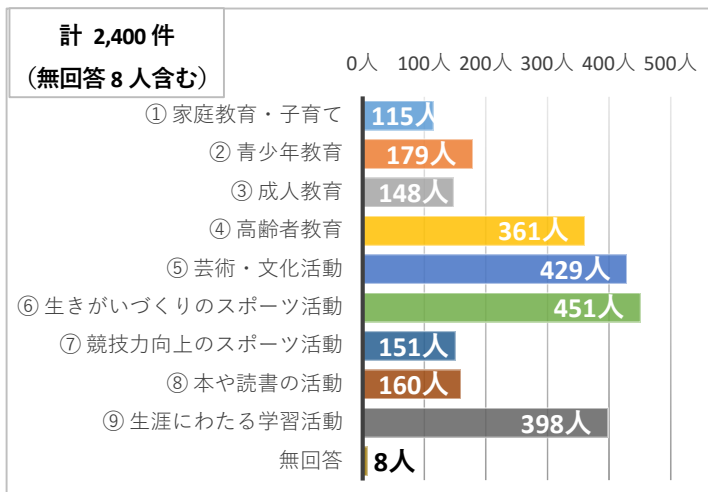
これらのほか、サークル活動者やいわみざわ市民大学受講者等をもても、生涯学習センター利用者の多くが65歳以上の高齢者であり、生涯にわたり生き生きと学び続ける市民の姿をみることが出来る反面、65歳未満の勤労者層の学びへの参加が低調なことが懸念されています。

学びの先にある、ボランティアなどの地域貢献活動やまちづくり活動は、様々な年代が関わり合うことで、より活発で魅力的なものになります。このことから、生涯学習センターを中心に、学生や勤労者層への学びに対するニーズに応えるこ

とについて、改めて考える必要があります。

アンケート回答者の多くが、「生きがいづくりのスポーツ活動」や「芸術・文化活動」に興味関心をもっており、「高齢者教育」や「生涯にわたる学習活動」を望んでいる一方、市に期待する今後の取組みとして「青少年教育」や「家庭教育・子育て」を挙げています。

図3：令和元年度実施アンケート調査 市民の興味・関心について

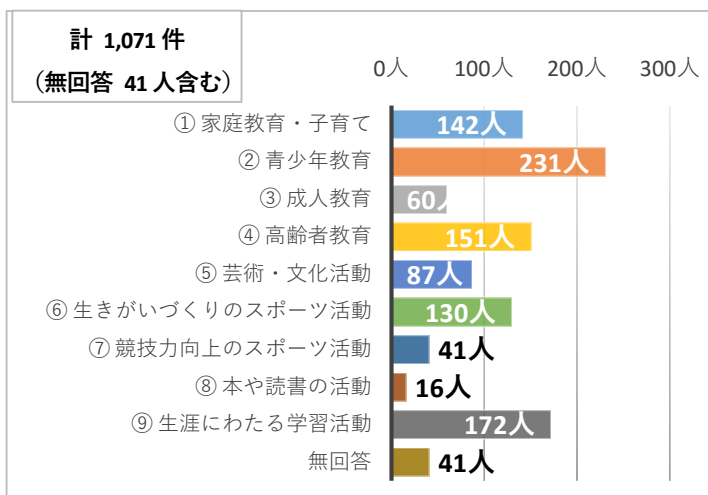


生涯学習センターの利用者が自分自身の学び以外にも、学びや仲間との交流を通じて自身の興味や関心を超えて、社会的な問題に関心をもち、その必要性を感じていることが伺われます。今後、幅広い年代が学習活動に参加することによって、

自身の興味や関心を超えて、地域づくりやまちづくりに視野が広がるよう事業を企画していかなければなりません。

勤労者層の活動に必要なことについては、「講座に関するもの」という回答が最も多く、次いで「PR活動」が挙げられています。

図4：令和元年度アンケート調査 市に期待する取組みについて



講座の企画にあたっては、勤労者層の興味・関心、学びのニーズ等の把握に努めるとともに、勤労者層の目に留まる、効果的なPR方法についても工夫する必要があります。

少子化による人口減少や急速な高齢化は全国共通の課題であり、避けられないものです。そうした中で、共通の課題を持つそれぞれの自治体が、希望に満ちた未来を描き、その実現にむけた確実な歩みを進めていくためのひとつの答えは、

第1章 序 論

社会教育の中にも見出すことができます。市民ひとり一人が岩見沢での暮らしを楽しみ、まちの未来に興味と関心を寄せ、未来に希望をもって、市民が生き生きと学び、創造性に富んだ豊かな人間性を育み、潤いのある地域づくりを目指していくことが大切です。

第2期岩見沢市社会教育中期計画は、その実現を目指して、次章に掲げる目標をもって取り組んでいきます。

第2章 総 論

〔1〕計画の基本目標

生き生きと学び 創造性に富んだ豊かな人間性を育み
潤いのある地域づくりを目指す 社会教育の推進

この基本目標は、市民一人ひとりが生き生きと学び、創造力豊かに夢と希望をもって個性や能力を伸ばすとともに、その学習成果や経験を地域づくりに生かすことを目指して定めました。学びを通して市民がそれぞれに目標を持ち、世代をこえて市民が交流することにより、互いを理解し、心がふれあう潤いのあるまちとなることを目標としています。

〔2〕計画の体系

計画の体系として、5つの推進区分に分け、その区分の中で基本方針を示しています。

I 学習活動の推進

【基本方針】

- 1 心豊かに育てる家庭教育の支援を充実します ～家庭教育・子育て～
- 2 青少年の健全育成のための学習活動を推進します ～青少年教育～
- 3 社会に貢献するための学習活動を推進します ～成人教育～
- 4 生きがいを持ち人生を豊かにする活動を推進します ～高齢者教育～

II 芸術・文化活動の推進

【基本方針】

- 1 豊かな心を育む芸術・文化活動を推進します

III スポーツ活動の推進

【基本方針】

- 1 健康や生きがいづくりのための生涯スポーツを推進します
- 2 競技力の向上を図るスポーツ活動を推進します

IV 図書活動の推進

【基本方針】

- 1 「地域の知の拠点」としての図書活動を推進します

V 社会教育環境づくりの推進

【基本方針】

- 1 生涯にわたり学習できる環境を整備します
- 2 学習活動をサポートする人的な環境づくりを推進します

〔3〕 計画の体系図

【基本目標】

「生き生きと学び 創造性に富んだ豊かな人間性を育み
潤いのある地域づくりを目指す 社会教育の推進」

推 進 区 分	基 本 方 針	施 策 の 方 向
Ⅰ 学習活動の推進	1 心豊かに育てる家庭教育の支援を充実します ~家庭教育・子育て~	(1) 発達段階に応じた学習機会の充実 (2) 家庭教育・子育て支援体制の充実
	2 青少年の健全育成のための学習活動を推進します ~青少年教育~	(1) 学習プログラムの充実や青少年リーダーの育成 (2) 安全・安心を確保する環境の整備
	3 社会に貢献するための学習活動を推進します ~成人教育~	(1) 時代の変化に対応した学習機会の充実 (2) 社会参加を促す環境づくり
	4 生きがいを持ち人生を豊かにする活動を推進します ~高齢者教育~	(1) 人生を豊かにする学習機会の充実 (2) 生きがいを創出する活動の充実
Ⅱ 芸術・文化活動の推進	1 豊かな心を育む芸術・文化活動を推進します	(1) 芸術・文化鑑賞機会の充実 (2) 創造的な文化活動の推進 (3) 地域文化活動の推進 (4) 文化財の保存・活用
Ⅲ スポーツ活動の推進	1 健康や生きがいづくりのための生涯スポーツを推進します	(1) 誰もが参加できるスポーツ機会の充実 (2) 地域スポーツ活動の推進
	2 競技力の向上を図るスポーツ活動を推進します	(1) 競技人口の拡大 (2) 競技水準の向上
Ⅳ 図書活動の推進	1 「地域の知の拠点」としての図書活動を推進します	(1) 図書資料の整備と効率的な活用 (2) 利用者サービスの充実 (3) 読書普及活動の推進 (4) ブックスタートの充実
Ⅴ 社会教育環境づくりの推進	1 生涯にわたり学習できる環境を整備します	(1) 学習環境の整備・充実
	2 学習活動をサポートする人的な環境づくりを推進します	(1) 人的環境づくりの充実 (2) 相談体制の拡充

I 学習活動の推進

1 心豊かに育てる家庭教育の支援を充実します ～家庭教育・子育て～

家庭教育は、全ての学びの出発点であり、特に乳幼児期は基本的な生活習慣や人に対する信頼感、豊かな情操を育む非常に重要な時期です。

そのためには、乳幼児期の子どもと保護者を支える学習機会を充実させる必要があります。乳幼児を育てる保護者は、子育てに対する不安や悩みを抱えることが多くあるにもかかわらず、核家族化や少子化を背景に地域において、同じ立場にある保護者が交流する機会は限られており、家庭の教育力の低下も懸念されます。

本市では、子どもの健やかな成長を図るために、子どもの発達の日目をとらえ、子どもの心身発達の特徴など、家庭教育のあり方についての学習機会を提供しています。また、子育てサークルに対して活動の場を提供するほか、子育て支援に関わる指導者を養成し、その能力を活用した事業を実施しています。

また、「こども・子育て広場『えみふる』」では、各支援部門の専門職が連携し、きめ細やかな相談と支援に努めています。

今後も、子育てに不安を抱えている保護者への学習機会の提供と、「こども・子育て広場『えみふる』」による子育て相談、情報提供、各種講座の取組みによって子どもや子育てに関する知識や技能を習得し、子育てに喜びを感じることができる環境の整備に努めていきます。

また、社会全体で子どもを育てる視点から、子育て中の保護者のみならず、広く市民を対象として、子育てへの理解を深めるための学習機会の充実に取り組めます。

第3章 各 論

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 発達段階に応じた学習機会の充実	ア しつけなど心身の発達段階に応じた研修会や講座を開催します。	家庭教育学級 参加者数
	イ 家庭教育を支援する指導者育成研修を実施するとともに、指導者の活動を支援します。	H30 507 人 → R6 500 人
	ウ 育児指導者の紹介など子育てサークルの自主的活動を支援します。	
	エ 社会全体で子どもを育てる視点から、広く市民を対象とした学習機会を提供します。	維持
(2) 家庭教育・子育て支援体制の充実	ア 家庭教育や子育てに関する情報交換ができるネットワークの連携を強化します。	子育て相談件数 相談件数
	イ 広報やホームページ・SNSなどにより、家庭教育に関する研修会・講座や子育てサークル活動の情報を提供します。	H30 1,664 件 → R6 1,322 件
	ウ 保健師・保育士等による子育て相談・支援を実施します。	
	エ 心と体を育む全天候型のあそび場を運営します。	充実
【該当する事業】 ・ 0 歳児教育事業 ・ 2・3 歳児教育事業 ・ 家庭教育指導者育成講座 ・ 家庭教育指導者活用講座 ・ 育児サークルサポート事業 ・ 子ども・子育て支援事業計画策定事業 ・ 常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」の運営 ・ 子育て支援センター運営事業（来所・電話相談）		

- ・子育て支援センター運営事業（小児科医による子育て相談日）
- ・子育て支援センター運営事業（おしゃべりルームとことこ）
- ・子育て支援センター運営事業（おしゃべりルームばぶばぶ）
- ・子育て支援センター運営事業（青空広場）
- ・子育て支援センター運営事業（ベビーマッサージ講習会）
- ・子育て支援センター運営事業（リフレッシュ支援事業）
- ・子育て支援センター運営事業（コミュニケーション広場「ぱぱといっしょ！」）
- ・子育て支援センター運営事業（広報活動ワンポイントメール）
- ・子育て支援センター運営事業（広報活動エンジェルメール）
- ・子ども発達支援センター事業
- ・子ども発達支援センター事業（こどもサポート「うずら」）
- ・岩見沢地区地域療育推進協議会の運営
- ・障害児通所支援費支給事業
- ・産前産後ヘルパー
- ・特別育児支援ヘルパー
- ・あそびの広場の運営
- ・母親クラブ活動
- ・子育て親子ひろば

計 26 事業

第3章 各 論

I 学習活動の推進

2 青少年の健全育成のための学習活動を推進します ～青少年教育～

青少年期は、保護者のもとで多くの時間を過ごしなが、学校や地域社会において友達や大人など多くの人との出会いの中で、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、問題を解決する能力や、豊かな人間性、社会性を身に付けていくための大切な時期です。

一方で、保護者の働き方の多様化を背景に、青少年が日々を過ごす環境も家庭から児童館などの公共施設へと変化しています。

さらに、インターネット社会の進展によるスマートフォン等の普及は、生活に豊かさをもたらす反面、青少年が有害な情報にふれる機会を増やし、非行や犯罪につながる危険性をはらんでいるほか、非対面コミュニケーションの難しさから、青少年が友人等との関係につまずくきっかけにもなっています。

本市では、児童館や放課後児童クラブを中心に青少年が安全に安心して過ごせる居場所をつくり、休日においても、科学、創作、自然体験など様々な学習機会を提供しています。

また、青少年が人とのかかわりの中で、健全な思考力や判断力を身に付け、社会的に自立した生活を送ることができるよう、地域の子ども会など、集団活動を支援しています。

さらに、子どもの安全・安心を確保するため、青少年センターを中心として、学校・家庭・地域の協力を得ながら関係機関と連携し、街頭補導活動や有害環境の改善に取り組んでいます。

今後は、学校と協力し、SNS（※1）やインターネットを介した犯罪被害や問題行動の防止、非対面コミュニケーションや情報リテラシーに関する学習機会を設け、青少年がSNS等インターネットを正しく使いこなし、暮らしに役立てることが出来るよう支援していきます。

これらの取組は「岩見沢市子ども・子育てプラン（令和2年度～6年度）」との整合性を図りながら進めていきます。

（※1）「SNS」： Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略）

個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービス。

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 学習プログラムの充実や青少年リーダーの育成	ア 青少年が放課後を安全に安心して過ごすことができるよう、児童館や放課後児童クラブを運営します。	いわみざわ チャレンジスクール 参加人数
	イ 青少年の休日の居場所づくりとして、地域の人材や有資格者などによる科学・創作・自然体験学習を実施します。	H30 639 人 → R6 670 人
	ウ 日常生活の体験を通して考えていることや科学する心を育む作品の発表機会を提供します。	充実
	エ 地域の子ども会による交流事業の実施や、青少年リーダー養成のための研修会へ派遣します。	
(2) 安全・安心を確保する環境の整備	ア 青少年センターを中心とした街頭補導や有害環境の浄化など、青少年の非行防止活動を実施します。	青少年センター 巡回回数
	イ SNSやインターネットを利用した犯罪被害や問題行動を防止するため、ホームページやポスター等による啓発事業を実施します。	H30 77 回 → R6 77 回
	ウ 学校と協力して、SNSやインターネットを正しく使いこなすための学習機会を提供します。	維持
【該当する事業】 ・ みんなで教育を考える日 ・ いわみざわチャレンジスクール（学習活動支援係分） ・ いわみざわチャレンジスクール（郷土科学館分） ・ 在学青少年受け入れ事業「いわなび×SCHOOL」 ・ 「こどもの日」科学館無料開放 ・ 郷土科学館巡回パネル展 ・ 科学館まつり ・ 郷土科学館「出前講座」		

第3章 各 論

- ・郷土科学館友の会活動支援事業
- ・児童館運営事業
- ・児童館交流事業
- ・親になるための交流事業
- ・子ども会活動補助事業
- ・炭鉄港ツアー
- ・わくわく子どもキャンプ
- ・地域子ども会野球大会
- ・子ども書初め大会
- ・子どもかるた大会
- ・初級リーダー養成研修会派遣
- ・ジュニアリーダーコース HOKKAIDO
- ・子ども発明工夫展
- ・少年の主張岩見沢大会
- ・青少年健全育成基金
- ・子ども・子育て支援事業
- ・子ども・子育て支援事業計画策定事業
- ・チャイルドホットライン体制による連携事業（子育て支援推進会議・要保護児童対策地域協議会）
- ・留守家庭児童対策事業
- ・青少年健全育成地区活動補助事業
- ・街頭補導
- ・青少年健全育成環境浄化モニター活動
- ・善行少年・青少年健全育成功労者表彰

計 31 事業

I 学習活動の推進

3 社会に貢献するための学習活動を推進します ～成人教育～

成人期は、社会的に自立し、家庭や職場、地域での責任を果たしていく時期であり、個人の関心、年齢、体力などに応じた主体的な活動が可能な時期でもあります。そのため、家庭や仕事、社会貢献など、それぞれのライフスタイルに応じた多様なニーズに応える学習内容が求められています。

また、科学技術の高度化や情報化・国際化の進展により、新たな知識・技術も高度化しており、そうした変化に対応する学習機会が求められています。

本市では、生涯学習に関する情報発信や相談体制の充実、指導者の育成強化に取り組むとともに、「いわみざわ市民大学」など、社会で生きていく上での幅広い教養を身に付けるための学習機会を提供し主体的な学習意欲の高揚を図っています。

また、人材登録の活用や「いわなびサロン」など、市民自らが学習成果を生かせる場の提供に努めています。

今後も、多様なニーズに対応した学習機会と内容の充実を図るとともに、誰もが参加しやすい学習環境づくりを進めていきます。

また、地域活動等の社会貢献に役立つ知識や幅広い教養を身に付けるための学習機会を充実させ、地域づくり活動への参画・協力を促進します。

第3章 各 論

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 時代の変化 に対応した学 習機会の充実	ア 情報化、国際化、地球環境の変化など時代の変化に対応する学習機会を充実します。	いわみざわ 市民大学 受講者の 平均年齢
	イ 市民ニーズに応える多様な講座を開催するとともに、市民大学は幅広い年代に応じた企画内容を充実します。	H30 72 歳 → R6 65 歳
	ウ 北海道教育大学岩見沢校との連携により、新たな学習事業の取組みを進めます。	充実
(2) 社会参加を 促す環境づく り	ア 学習活動や地域ボランティア活動の情報を提供します。	いわなび ロビー展示・コンサート 実施回数
	イ 学習成果を生かした市民講座の開催を促進します。	H30 16 展示・14 講演 → R6 17 展示・15 講演
	ウ 各団体やサークル活動を支援するとともに、情報交換ができるネットワークづくりを促進します。	充実
【該当する事業】 ・いわみざわ市民大学 ・郷土科学館巡回パネル展 ・科学館まつり ・郷土科学館友の会 ・いわなびサロン ・成人の日記念式典 ・学習活動ボランティア活用事業 計 7 事業		

I 学習活動の推進

4 生きがいを持ち人生を豊かにする活動を推進します ～高齢者教育～

超高齢社会の中で、高齢者がその豊富な知識や技能を生かし、生涯にわたって充実した生活を送ることが出来るような取組みが求められています。高齢者がいつまでも生き生きと活躍することは、社会全体の豊かさを押し上げ、地域のつながりを保つことにも役立ちます。

本市では、高齢者が健康で豊かな生きがいのある生活を送ることができるよう、各地域の高齢者を対象に、暮らしや健康づくり等をテーマとした講義など、楽しんで参加できる高齢者大学を開講しています。講義等に参加することを通して、高齢者の孤立を防ぎ、加齢による身体機能の低下を抑制することも期待できます。

今後も、健康づくりや仲間づくりの場として、高齢者のニーズが高いスポーツ・文化・芸能などの学習機会を充実させるとともに、ボランティア活動など、豊かな知識や経験を生かした社会参加を促進し、生きがいづくりにつながる活動の場を充実させていきます。

第3章 各 論

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 人生を豊かにする学習機会の充実	ア 健康講座や文化教室など、学習ニーズにあった高齢者大学の企画内容を充実します。 イ 気軽に参加し、仲間づくりができる学習の場とするため、体験型講座を充実するとともに、参加者相互の交流を促進します。	岩見沢市ことぶき学園 ・ 栗沢長寿大学 ・ 北村寿大学 参加者数
		【岩見沢市ことぶき学園】 H30 91 名 → R6 90 名 【栗沢長寿大学】 H30 73 名 → R6 70 名 【北村寿大学】 H30 39 名 → R6 40 名
		維持
(2) 生きがいを創出する活動の充実	ア 人材登録と活用を促進するため、積極的に情報発信します。 イ 豊かな経験や知識・技能を後世に伝える世代間交流を促進します。 ウ 学習成果の発表機会を広げ、学習意欲の向上を図ります。	高齢者大学 世代間交流講座の設置・サークル（クラブ）発表会開催
		【世代間交流講座の設置】 H30 3 講座 → R6 3 講座 【サークル（クラブ）発表会開催数】 H30 2 講座 → R6 2 講座
		維持
【該当する事業】 ・ 岩見沢市ことぶき学園 ・ 栗沢長寿大学 ・ 北村寿大学 ・ いわなびサロン 計 4 事業		

Ⅱ 芸術・文化活動の推進

1 豊かな心を育む芸術・文化活動を推進します

市民の生活意識や価値観の多様化が進み、「もの」の豊かさを追い求めた時代から、心の豊かさを求める時代へと転換しようとしている今日、芸術・文化への関心が一層高まっています。芸術・文化は、市民に感動や刺激を与えるとともに、創造性を育みます。

また、芸術・文化に関する学びは、取り組んでいる市民の多い分野のひとつでもあります。しかし、その一方で、伝統芸能の保存・伝承が困難となるなどの課題も生じています。

本市では、芸術・文化に誰もが親しみ、創造性を発揮して心豊かな生活を送ることが出来るよう、関係団体と連携し、芸術・文化の鑑賞機会の提供や文化活動に対する支援を行っています。

また、市の指定文化財や各種郷土芸能は、郷土岩見沢の歴史や文化を理解する上で大切な市民共有の財産であることから、適切な保存と活動支援を行い、次世代への継承に努めています。

今後も、様々な創造的文化活動のきっかけづくりとして、市民ニーズに対応した芸術・文化の鑑賞機会を提供するとともに、市民が気軽に発表できる機会を充実させ、文化活動の裾野を広げていきます。

また、伝統文化の担い手不足や高齢化が進んでいることから、指導者・後継者の育成を支援するなど、指定文化財や各種郷土芸能を次世代に守り伝えていく取り組みを進めます。

第3章 各 論

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 芸術・文化鑑賞機会の充実	ア 広報やホームページ・SNSなどにより、芸術・文化鑑賞に関する情報を広く発信します。	絵画ホール 入館者数
	イ 舞台や音楽、美術など、多彩なジャンルで質の高い芸術・文化にふれる機会を提供します。	H30 5,673 人 → R6 5,956 人
		充実
(2) 創造的な文化活動の推進	ア 市民の自主的な文化活動を促進するため、活動成果を発表できる機会を充実します。	市民向け文化祭 開催数
	イ 子どもたちの創造性の涵養を図るため、北海道教育大学岩見沢校と連携し、地域の特性を生かした文化活動を推進します。	H30 2 回 → R6 2 回
		維持
(3) 地域文化活動の推進	ア 市内各地域における文化活動を促進するとともに、地域の核となる人材の育成を支援します。	地域の文化祭 開催数
		H30 2 回 → R6 2 回
		維持
(4) 文化財の保存・活用	ア 指定文化財の適切な保存・活用に努め、周知・啓発活動を推進します。	文化財の周知活動 市教育広報への掲載回数
	イ 郷土芸能の再興を促し、伝承活動を支援に努めます。	H30 0 回 → R6 2 回
	ウ 郷土資料の整理・保存に取り組み、展示機能を充実します。	充実
【該当する事業】		
・文化のまちづくり事業		
・常設展「松島正幸の世界＜こころの旅路＞」		
・特別企画展 川本ヤスヒロ展		
・特別企画展 伊藤光悦展		
・企画展「書之美」岩見沢の書家展 6		

- ・ 北の日本画展 岩見沢移動展
- ・ 特別企画展 今橋香奈子日本画展
- ・ 特別企画展 男のドールハウス展
- ・ 特別企画展 塚本竜玄展～没後 7 年炎の記憶～
- ・ 企画展 「明日への創造」北海道教育大学岩見沢校美術専攻展
- ・ 特別企画展 津田光太郎油彩画展
- ・ 企画展 「岩見沢市教育美術展～未来の画家のたまごたち～」
- ・ 企画展 「岩見沢市在住画家展」
- ・ 子ども文化祭
- ・ 市民の文化祭
- ・ 依田こども囲碁教室
- ・ 依田杯全道こども囲碁大会
- ・ 郷土科学館プラネタリウム番組の上映
- ・ 文化団体育成補助金
- ・ 芸術文化団体全国大会出場奨励金
- ・ 岩見沢市文化賞及びスポーツ賞
- ・ 人と歴史と文化のふれあい事業
- ・ 指定文化財保存維持管理
- ・ SL の保守管理
- ・ 岩見沢郷土科学館企画展

計 25 事業

第3章 各 論

Ⅲ スポーツ活動の推進

1 健康や生きがいづくりのための生涯スポーツを推進します

超高齢社会の中で、誰もが健康で豊かな生活を長く続けるために、健康づくりへの関心が高まっています。

スポーツは、健康・体力づくりという効果に加え、豊かな心を育み、人生を充実させることにつながるため、生涯にわたってスポーツに親しむことができるスポーツ環境の充実が求められています。

本市では、生涯を通じてスポーツに親しめるように、関係機関と連携して、誰もが参加でき手軽に取り組める歩く健康づくり事業や、子どもに運動の楽しさを知ってもらうためのスポーツ教室の開催など、誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ環境づくりに努めるとともに、スポーツ団体の育成や市民スポーツ大会の開催を支援しています。

今後は、各種競技大会やスポーツ教室への積極的な参加を図るとともに、障がい者や高齢者が参加できる事業、様々な世代が交流できる事業など、市民の誰もが生きがいを持ち、生涯にわたって親しむことができるスポーツ事業を拡充し、健康寿命を延ばす取組みを進めます。

また、地域の交流をつくる身近なスポーツ活動として、あらゆる年齢層が多種目のスポーツを楽しめる「総合型地域スポーツクラブ」(※2)と協力して、幅広いニーズに応え、スポーツを通じて人のつながり、地域のつながりをつくることを目指します。

(※2)「総合型地域スポーツクラブ」

幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて様々なスポーツに触れる機会を提供する、地域住民の運営による地域密着型スポーツクラブ。

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 誰もが参加できるスポーツ機会の充実	ア 広報やホームページ・SNSなどにより、各種スポーツ教室・スポーツイベントの開催等を広く情報発信します。	ウォーキングマラソン 参加者数
	イ 市民の健康と生きがいづくりを推進するため、幅広い世代が親しみ交流でき、また、親子で参加できるスポーツ機会を充実します。	H30 131 人 → R6 130 人
	ウ 北海道教育大学岩見沢校やスポーツ推進委員と連携し、障がい者や高齢者が安心して参加できるスポーツ事業の拡充を図ります。	維持
(2) 地域スポーツ活動の推進	ア 地域スポーツ活動の活性化を図るため、地域の核となる人材を育成するとともに、地域スポーツ大会の開催を支援します。	市内スポーツ少年団 団体数
	イ 幅広い年齢層に、様々なスポーツを楽しむ機会を提供する「総合型地域スポーツクラブ」の設立を促進します。	H30 16 団体 → R6 16 団体
		維持
【該当する事業】 ・小学生初級スキー教室 ・ふれあいウォーク&ラン ・市民歩け歩け大会 ・ウォーキングマラソン大会 ・歩くスキー教室、歩くスキーの集い ・温水プール水泳教室 ・北村プール水中体操 ・栗沢 B&G 海洋センタープール水泳教室 ・栗沢スポーツ大会 ・全道玉入れ選手権大会補助金 ・アダスポ！岩見沢開催補助金 ・岩見沢市強化指定選手等アスリート奨励金 ・小学生スポーツ教室		

第3章 各 論

- ・パラリンピック合宿受入事業補助金
- ・全国大会出場者奨励金
- ・各種大会開催補助金
- ・体育協会等運営補助金
- ・岩見沢市スポーツ協力者の会運営補助金

計 18 事業

Ⅲ スポーツ活動の推進

2 競技力の向上を図るスポーツ活動を推進します

スポーツには、人間の可能性の極限を追求するという意義があり、競技スポーツに打ち込む選手のひたむきな姿や高い技術は、人々のスポーツへの関心を高めます。また、地元出身の選手が全国大会や国際大会で活躍することは、子どもたちに夢や希望を与え、市民の誇りにもつながります。

また、地元出身の選手が全国大会や国際大会で活躍することは、子どもたちに夢や希望を与え、市民の誇りにもつながります。

本市では、各種スポーツの競技力向上のため、当市で開催される全道・全国大会への援助や全国大会出場選手に対する支援を行っています。

また、スポーツ少年団活動を奨励し、団員間の交流・親睦を図る事業を実施しています。

今後は、子どもの体力向上や運動機能の発達につながる事業を充実させるとともに、競争力のある、優れた人材を育成するため、ジュニア期から多様なスポーツにふれる機会をつくるほか、トップアスリートの合宿を誘致するなど、レベルの高い技術にふれる機会を提供し、競技水準の向上を図ります。

第3章 各 論

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 競技人口の 拡大	ア 北海道教育大学岩見沢校等と連携し、多様なジュニアスポーツ教室等の取組みを展開します。	市内スポーツ少年団 団体数
	イ スポーツ少年団等への加入を促進するため、活動に関する情報提供を充実します。	H30 16 団体 → R6 16 団体
	ウ 既存の社会教育施設を整備するなど、スポーツ合宿の環境の充実に努めます。	維持
(2) 競技水準の 向上	ア スポーツ指導者を育成するため、各種研修会・講習会等の開催や参加を促進します。	全国大会出場者 (スポーツ分野) 助成件数
	イ プロスポーツ教室やトップアスリートの合宿を誘致するなど、レベルの高い技術にふれる機会を提供します。	H30 32 件 → R6 33 件
	ウ 当市で開催する全道・全国大会の開催助成を行います。	
	エ 全国大会への出場選手に対し、支援を行います。	充実
【該当する事業】 ・楽しいキッズスポーツ教室 ・「体育の日」記念岩見沢市総合体育大会補助金 ・岩見沢市文化賞及びスポーツ賞		
		計 3 事業

Ⅳ 図書活動の推進

1 「地域の知の拠点」としての図書活動を推進します

SNSやインターネットの普及により、多くの人が手軽に様々な情報にふれることができる環境が整ってきました。その反面、市民自らが課題を解決するためには、膨大な情報の中から必要な情報を見極め、選択する能力を身に付ける必要があります、あらためて図書館の役割が見直されています。

本市では、図書館を「地域の知の拠点」とし、図書、記録、その他必要な資料の収集、保存に努め、市民自らが課題の解決に向けて、考え行動するために必要な知識や情報を提供しています。

また、他の教育機関やボランティア団体等との連携・協働による作家講演会、読み聞かせ、朗読会、ブックカフェ（※3）など、心の豊かさにつながる多彩で幅広い世代に対応した読書普及活動に取り組んでいます。

また、地域に誕生した全ての赤ちゃんとその保護者を対象に、絵本を贈るブックスタート事業や、3歳未満児を対象にした読み聞かせや絵本の紹介を行うベビカフェ事業を展開し、子育てに読書を取り入れることを提案しています。

今後は、迅速で利便性の高いサービスの提供のため、計画的なICタグ整備を進めるとともに、幅広い世代に対応した読書普及活動を推進します。また、魅力ある事業の展開とメディアを活用した情報発信により、市民の活動の幅を広げ、様々な課題の解決に役立つよう、サービスの向上を図ります。

（※3）「ブックカフェ」

親子広場や子育てサークル、老人クラブなどが希望する場所に出向き、それぞれのニーズに合った本200～300冊程度用意し、貸出しのほか読み聞かせ等も行う。

第3章 各 論

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 図書資料の整備と効率的な活用	ア 各館の特性に合わせた図書資料の収集・整備・保存に努めるとともに、図書資料の効率的な活用を図ります。	図書施設 (市立図書館本館・来夢21・北村学習交流館) 蔵書数
		H30 326,709 冊 → R6 326,700 冊
		維持
(2) 利用者サービスの充実	ア 図書館だよりやホームページ・SNSなどにより積極的に情報を提供します。 イ 地域図書サービス拠点の利用促進を図ります。 ウ 利用者の利便性を高めるため、レファレンスサービス(※4)の充実を図るほか、迅速な資料提供のため、計画的なICタグの整備を進めます。	図書施設 (市立図書館本館・北村学習交流館) 来館者数
		H30 160,787 人 → R6 168,826 人
		充実
(3) 読書普及活動の推進	ア 魅力ある図書館事業の企画・運営に努め、幅広い世代に対応した多彩な読書普及活動を推進します。 イ 小・中・高等学校と連携した読書普及活動を推進するとともに、学校及び図書館で活動するボランティアの育成に努め、読書普及に向けて積極的に活用します。	ブックトーク 実施学校数
		H30 市内全校 → R6 市内全校
		維持
(4) ブックスタートの充実	ア 絵本の読み聞かせ講座など各種講習会の開催により、ブックスタートボランティアのスキルアップを図り、ベビカフェ(※5)事業等を充実します。	ブックスタート 実施回数
		H30 12 回 → R6 12 回
		維持

【該当する事業】

- ・ブックリサイクル
- ・図書館シアター
- ・火曜落語
- ・地域図書サービス拠点
- ・広報誌発行・ホームページ掲載
- ・点字図書文庫・サピエ図書館
- ・こども読書会
- ・絵本の読み聞かせ
- ・一日図書館（ブックカフェ）
- ・ナイト・ライブラリー
- ・図書館フェスティバル
- ・北村おはなしフェスタ
- ・来夢21 図書館ワークショップ
- ・来夢まるごと X'mas
- ・製本講習会
- ・読み聞かせボランティア
- ・ブックトーク
- ・学校と連携した読書推進
- ・本に親しむ会
- ・ブックスタート
- ・ブックスタートボランティア研修会
- ・ベビカフェ

計 22 事業

(※4)「レファレンスサービス」

図書館職員が、何らかの情報や本などを求めている人に対して、その情報や本などを提供する業務。

(※5)「ベビカフェ」

3歳未満の乳幼児を対象にした絵本の紹介や読み聞かせ、親子のスキンシップ遊びや、育児・健康相談等を実施する事業。

第3章 各 論

V 社会教育環境づくりの推進

1 生涯にわたり学習できる環境を整備します

市民の学びを支える社会教育施設には、人口減少による利用者数の変化と、施設の老朽化という2つの課題があり、統廃合を含めた施設の計画的な整備により、安全で快適な学習環境の確保に努めなければなりません。

本市の社会教育施設は、市民の生涯学習活動の拠点として大きな役割を担っており、利用者の視点に立って、施設の安全性確保と機能保全を図りながら整備と管理運営を行っています。

また、多くの施設で指定管理者制度を導入し、モニタリング等による監視・指導を行い、効率的で効果的な施設の管理運営を図っています。

今後は、人口減少等による施設利用の変化や老朽化に伴う修繕費等の増大が予想されるため、施設全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化など、計画的な施設整備を進めつつ、多様化する市民ニーズに対応した安全で快適な施設環境づくりを進めます。

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 学習環境の整備・充実	ア 施設の利用期間・時間の延長など、利用者の利便性を向上します。	社会教育施設 (保育施設を除く)
	イ 施設の統廃合も含めた計画的な整備により、安全で快適な施設環境づくりを進めます。	人口当たりの年間利用回数
	ウ 誰もが利用しやすい施設を目指し、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を進めます。	H30 15.08 回 → R6 15.83 回
		充実
【該当する事業】 ・ 郷土科学館リニューアル計画の策定 ・ 社会教育施設の整備 ・ 社会教育施設の指定管理者制度導入 計 3 事業		

第3章 各 論

V 社会教育環境づくりの推進

2 学習活動をサポートする人的な環境づくりを推進します

市民の学習活動は、教養、文化、スポーツ、まちづくりなど様々な分野で取り組まれており、時間や場所、方法など、その形態は多種多様です。これらの学習活動をサポートし充実させるため、活動を支援する担い手の育成と確保が重要となっています。

本市では、学びの拠点となる「岩見沢市生涯学習センター『いわなび』」に専門職員を配置し、学習に関する相談や情報提供を行うほか、ボランティア指導者等と連携して市民の学習活動の充実に努めています。

今後は、市民の多様化する学習ニーズに対応するため、専門職員の実践的な研修を通して資質の向上を図るとともに、指導者の育成と、育成した指導者の実践機会を確保する等、人的環境づくりに努めます。

〔施策の方向〕	〔具体的な施策〕	〔評価指標〕
(1) 人的環境 づくりの充 実	ア 社会教育に関する実務研修会に派遣するなど、 施設職員の資質の向上を図ります。	人材バンク・サークル 登録者数
	イ 多様な学習環境を確保するため、指導者の育成 に努めます。	H30 35人・61団体 → R6 35人・61団体
	ウ 社会教育関係職員間の相互交流により情報の 共有を図ります。	維持
(2) 相談体制 の拡充	ア 多様化する学習活動をサポートするため、相 談・協力体制を充実します。	生涯学習活動に係る 相談窓口数
	イ 国や道などの関係機関との連携を密にし、情報 の収集と提供を図ります。	H30 2か所 (であえーる 4F、いわ なび) → R6 2か所
	ウ 相談に対する専門家や関係者の協力体制の整 備を進めます。	維持
【該当する事業】 ・社会教育に関する研修会等 ・社会教育専門職員の配置 計 2事業		

■ 資 料 編

岩教生 第 1 1 3 号
令和元年 5 月 3 0 日

岩見沢市社会教育委員の会議
議 長 高 岡 いづみ 様

岩見沢市教育委員会
教育長 三 角 光 二

第 2 期 岩見沢市社会教育中期計画の策定について（諮問）

このことについて、社会教育法第 1 7 条第 1 項第 2 号に基づき、「岩見沢市社会教育中期計画」の策定を下記のとおり諮問いたします。

記

1 諮問理由

岩見沢市教育委員会は、平成 2 7 年 2 月に岩見沢市社会教育中期計画（平成 2 7 年度から平成 3 1 年度）を策定し、「生き生きと学び 創造性に富んだ豊かな人間性を育み潤いのある地域づくりを目指す 社会教育の推進」を基本目標に、諸施策の推進に努めてまいりました。

第 1 期の計画期間中には、より一層の少子・高齢化の進行、経済構造の変化、情報技術の高度化など、急激な社会構造の変化に伴い、人々の価値観も多様化し、本市においても市民の学習に対する要求はますます多様化・高度化してきています。

このような中、市民のニーズや地域課題に対応した学習機会・学習情報の提供や学習した成果を活用することができる機会を提供するなど、市民の学習活動を総合的に支援することがますます重要となっています。

このことから、引き続き、生涯にわたって主体的に学ぶ環境づくりを推進し、本市の社会教育をより一層充実させるため、第 2 期 岩見沢市社会教育中期計画（令和 2 年度から令和 6 年度）の策定について、諮問いたします。

2 計画策定の主な観点

- ・ 岩見沢市の社会教育の現状と課題
- ・ 生涯学習の観点に立った社会教育のあり方
- ・ 今後の岩見沢市における社会教育の振興方策

3 計画期間

令和 2 年度から令和 6 年度まで（5 か年）

4 答申期限

令和 2 年 2 月下旬

令和２年 ２ 月 ２ ０ 日

岩見沢市教育委員会

委員長 三 角 光 二 様

岩見沢市社会教育委員の会議

議長 高 岡 いづみ

岩見沢市社会教育中期計画の策定について（答申）

令和元年５月３０日付けで諮問のありました「岩見沢市社会教育中期計画」の策定について、本会議におきまして慎重に審議を重ね、この度「第２期岩見沢市社会教育中期計画（令和２年度～令和６年度）」として取りまとめましたので、答申いたします。

本答申が、岩見沢市における社会教育行政の推進に反映され、具現化が図られることを期待します。

岩見沢市社会教育中期計画策定経過

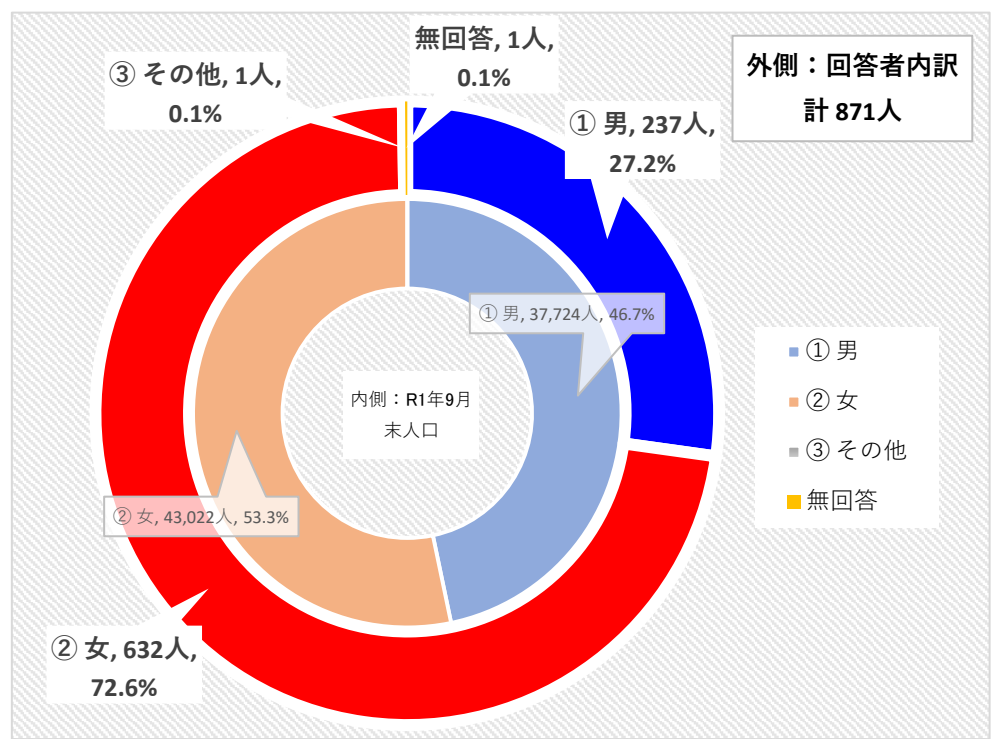
年 月 日	内 容
(平成30年) 11月26日	【平成30年度 第3回社会教育委員の会議】 ○ 事務局主催で、社会教育委員対象に社会教育中期計画策定の意義などに関する勉強会を開催
(令和元年) 5月30日	【令和元年度 第1回社会教育委員の会議】 ○ 第2期岩見沢市社会教育中期計画策定について、社会教育委員の会議に諮問 ○ 平成27年度以降の取組をふまえた課題について (第1期岩見沢市社会教育中期計画の結果について協議)
7月30日	【令和元年度 第2回社会教育委員の会議】 ○ 社会教育中期計画素案の協議 ・平成27年度以降の課題 ・評価指標第1案について
10月18日～ 31日	○ アンケート調査の実施 ・いわなび利用者を対象に、社会教育施策について調査
10月24日	【令和元年度 第3回社会教育委員の会議】 ○ 社会教育中期計画の協議 ・評価指標の修正案について ・アンケート調査の実施内容を報告
(令和2年) 1月17日～ 24日	○ 社会教育中期計画の素案について、事務局から各委員に案として送付し、意見等を集約
2月20日	○ 社会教育委員の会議から教育委員会に対し、計画の策定について答申
2月21日	○ 総務常任委員会において計画の策定について報告
3月27日	【令和2年 第3回教育委員会定例会】 ○ 社会教育中期計画の決定

岩見沢市社会教育委員名簿

役 職	氏 名	選 出 区 分	所 属 等
議長	高岡 いづみ	家 庭 教 育 関 係 者	岩見沢市主任児童委員
副議長	干場 法美	学 識 経 験 者	旧栗沢町社会教育委員
委員	宮澤 一	学 校 教 育 関 係 者	岩見沢緑陵高等学校
〃	成田 将人	〃	岩見沢市校長会
〃	前川 信	社 会 教 育 関 係 者	特定非営利活動法人岩見沢市体育協会
〃	岡 嘉彦	〃	岩見沢文化連盟
〃	金田 貴彦	〃	岩見沢市ＰＴＡ連合会
〃	佐藤 恭二	学 識 経 験 者	旧北村社会教育委員
〃	今井 美智子	〃	旧北村社会教育委員
〃	小川 恵子	家 庭 教 育 関 係 者	岩見沢市主任児童委員
〃	藤田 雅子	〃	子ども・子育て会議委員
〃	須藤 一容	〃	岩見沢市図書館ボランティア
〃	林 睦子	〃	岩見沢市プレーパーク研究会会員
〃	平瀬 春吉	学 識 経 験 者	公募委員
〃	吉田 多佳子	〃	公募委員

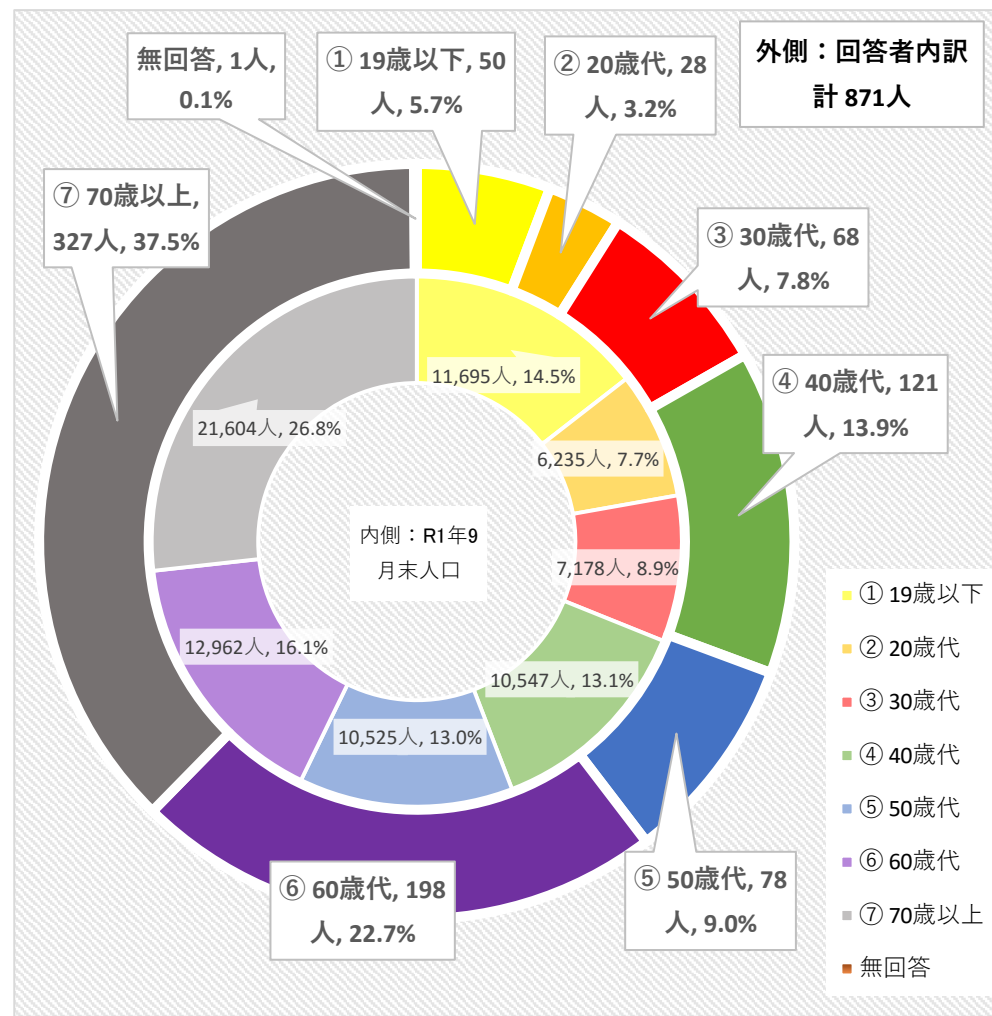
推進区分	基本方針	施策の方向	評価指標			指標の理由	社会教育委員 の意見
Ⅰ 学習活動の 推進	1 心豊かに育てる 家庭教育の支援を 充実します ～家庭教育 ・子育て～	(1) 発達段階に応じた 学習機会の充実	家庭教育学級 参加者数	H30 507人 → R6 500人	維持	・少子化を考慮に入れる。	
		(2) 家庭教育・子育て 支援体制の充実	子育て相談件数 相談件数	H30 1,664件 → R6 1,322件	充実	・相談率5%増を見込む。	・育児のカウンセリングについ て、目に見える指標で評価する方 法の検討
	2 青少年の健全 育成のための学習 活動を推進します ～青少年教育～	(1) 学習プログラムの 充実や青少年リーダー の育成	いわみざわチャレンジス クール 参加人数	H30 639人 → R6 670人	充実	・参加人数5%増を見込む。	
		(2) 安全・安心を確保 する環境の整備	青少年センター 巡回回数	H30 77回 → R6 77回	維持	・5年後の維持を目指す。	
	3 社会に貢献する ための学習活動を 推進します ～成人教育～	(1) 時代の変化に対応 した学習機会の充実	いわみざわ市民大学 受講者の平均年齢	H30 72歳 → R6 65歳	充実	・労働者層（30代～50代） の参加者増を目指す。	・働く世代の教育活動の充実の検 討 ・単発の成人教育講座の創設
		(2) 社会参加を促す 環境づくり	いわなび ロビー展示・コンサート 実施回数	H30 16展示・14講演 → R6 17展示・15講演	充実	・5%増を目指す。	・若者の社会参加促進のための今 日の視点の導入
	4 生きがいを持ち 人生を豊かにする 活動を推進します ～高齢者教育～	(1) 人生を豊かにする 学習機会の充実	岩見沢市ことぶき学園 参加者数	H30 91名 → R6 90名	維持	・人口減を考慮に入れる。	・参加者同士の交流、生きがいづ くりにつながる地域の人材確保
			栗沢長寿大学 参加者数	H30 73名 → R6 70名			
			北村寿大学 参加者数	H30 39名 → R6 40名			
		(2) 生きがいを創出 する活動の充実	高齢者大学 世代間交流講座の設置	H30 3講座 → R6 3講座	維持	・従来通り各3事業1講座実施 を見込む。	
			高齢者大学 サークル（クラブ）発表会	H30 2講座 → R6 2講座		・従来通りの実施を見込む。	
Ⅱ 芸術・文化 活動の推進	1 豊かな心を育む 芸術・文化活動を 推進します	(1) 芸術・文化鑑賞 機会の充実	絵画ホール 入館者数	H30 5,673人 → R6 5,956人	充実	・5%増を見込む。	
		(2) 創造的な文化活動 の推進	市民向け文化祭 開催数	H30 2回 （子ども文化祭・市民の文化 祭） → R6 2回	維持	・従来通りの実施を見込む。	・創造性の高い活動のための施設 の利活用の促進
		(3) 地域文化活動の 推進	地域の文化祭 開催数	H30 2回 → R6 2回	維持	・従来通りの実施を見込む。	・若者の文化活動参加への促進 ・地域の文化活動の高齢化対策
		(4) 文化財の保存・ 活用	文化財の周知活動 市教育広報への掲載回数	H30 0回 → R6 2回	充実	・5年後年2回実施を目標とす る。	・市民が郷土の歴史や文化に対す る理解を深められる場の提供
Ⅲ スポーツ活 動の推進	1 健康や生きがい づくりのための 生涯スポーツを 推進します	(1) 誰もが参加できる スポーツ機会の充実	ウォーキングマラソン 参加者数	H30 131人 → R6 130人	維持	・5年後の参加者維持を目指 す。	・託児付きのスポーツ体験イベン トの充実 ・スポーツ活動を支える施設整備
		(2) 地域スポーツ活動 の推進	市内スポーツ少年団 団体数	H30 16団体 → R6 16団体	維持	・少子化を考慮に入れ、5年 後の維持を目指す。	・地域のスポーツ指導者の確保 ・次世代の指導者の育成
	2 競技力の向上を 図るスポーツ活動 を推進します	(1) 競技人口の拡大	市内スポーツ少年団 団体数	H30 16団体 → R6 16団体	維持	・少子化を考慮に入れ、5年 後の維持を目指す。	・地域のスポーツ団体に係る外部 指導者の活用方法についての研究 ・スポーツ少年団の維持と創設促 進
		(2) 競技水準の向上	全国大会出場者 （スポーツ分野） 助成件数	H30 32件 → R6 33件	充実	・5%増を目指す。	・市出身のプロアスリートや芸術 家の一覧を市HPに掲載
Ⅳ 図書活動の 推進	1 「地域の知の 拠点」としての 図書活動を推進 します	(1) 図書資料の整備と 効率的な活用	図書施設 （市立図書館本館・来夢2 1・北村学習交流館） 蔵書数	H30 326,709冊 → R6 326,700冊	維持	・収蔵能力と不要な図書を廃 棄することを考慮に入れる。	・地域図書サービスの充実 ・高齢者や図書館利用に支障のあ る人を対象としたサービス拡大
		(2) 利用者サービスの 充実	図書施設 （市立図書館本館・北村学 習交流館） 来館者数	H30 160,787人 → R6 168,826人	充実	・5か年で5%増を目標とす る。	
		(3) 読書普及活動の 推進	ブックトーク 実施学校数	H30 市内全校 → R6 市内全校	維持	・5年後も全校実施を目標と する。	
		(4) ブックスタートの 充実	ブックスタート 実施回数	H30 12回 → R6 12回	維持	・5年後も毎月実施を目標と する。	
Ⅴ 社会教育環 境づくり	1 生涯にわたり 学習できる環境を 整備します	(1) 学習環境の整備 ・充実	社会教育施設 （保育施設を除く） 人口当たりの年間利用回数	H30 15.08回 → R6 15.83回	充実	・人口減を考慮に入れ、人口 当たりの利用回数5%増を目 指す。	・社会教育施設の学校教育での活 用、社会教育での学校教育施設活 用の検討 ・スポーツ活動を支える施設整備
	2 学習活動を サポートする 人的な環境づくり を推進します	(1) 人的環境づくりの 充実	人材バンク・サークル 登録者数	H30 35人・61団体 → R6 35人・61団体	維持	・人口減を考慮に入れ、5年 後の維持を目指す。	
		(2) 相談体制の充実	生涯学習活動に係る 相談窓口数	H30 2か所 （であえーる4F、いわなび） → R6 2か所	維持	・5年後の維持を目指す。	

問 1 回答者の性別



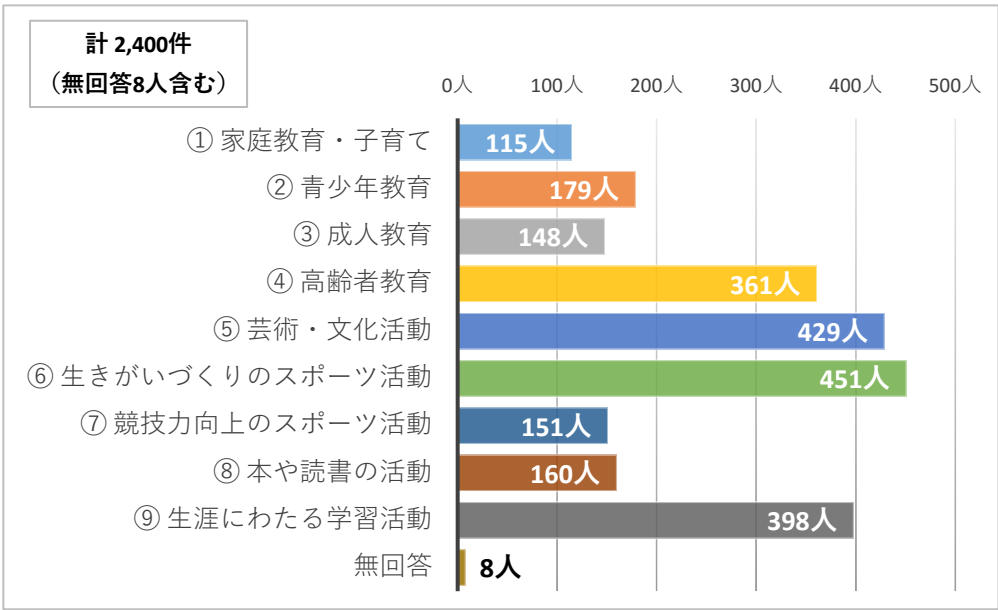
	回答者		人口 (R1年9月末)	
男	237人	27.2%	37,724人	46.7%
女	632人	72.6%	43,022人	53.3%
その他	1人	0.1%	0人	0.0%
無回答	1人	0.1%		
計	871人		80,746人	

問 2 回答者の年齢



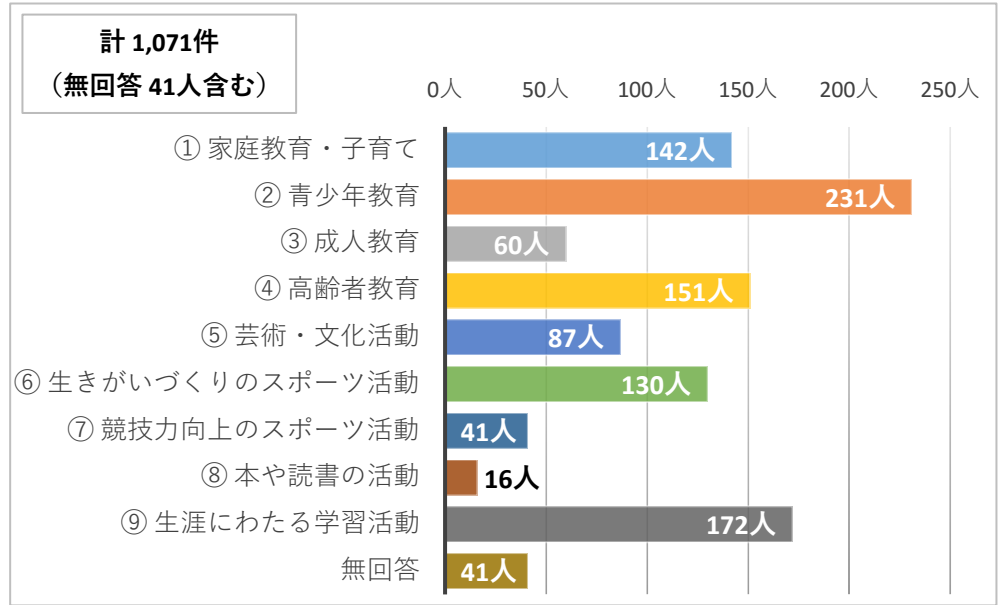
	回答者		人口 (R1年9月末)	
19歳以下	50人	5.7%	11,695人	14.5%
20歳代	28人	3.2%	6,235人	7.7%
30歳代	68人	7.8%	7,178人	8.9%
40歳代	121人	13.9%	10,547人	13.1%
50歳代	78人	9.0%	10,525人	13.0%
60歳代	198人	22.7%	12,962人	16.1%
70歳以上	327人	37.5%	21,604人	26.8%
無回答	1人	0.1%		
計	871人		80,746人	

問3 興味・関心 〈3つまで選択〉



	回答者
① 家庭教育・子育て	115人
② 青少年教育	179人
③ 成人教育	148人
④ 高齢者教育	361人
⑤ 芸術・文化活動	429人
⑥ 生きがいづくりのスポーツ活動	451人
⑦ 競技力向上のスポーツ活動	151人
⑧ 本や読書の活動	160人
⑨ 生涯にわたる学習活動	398人
無回答	8人
計	2,400人

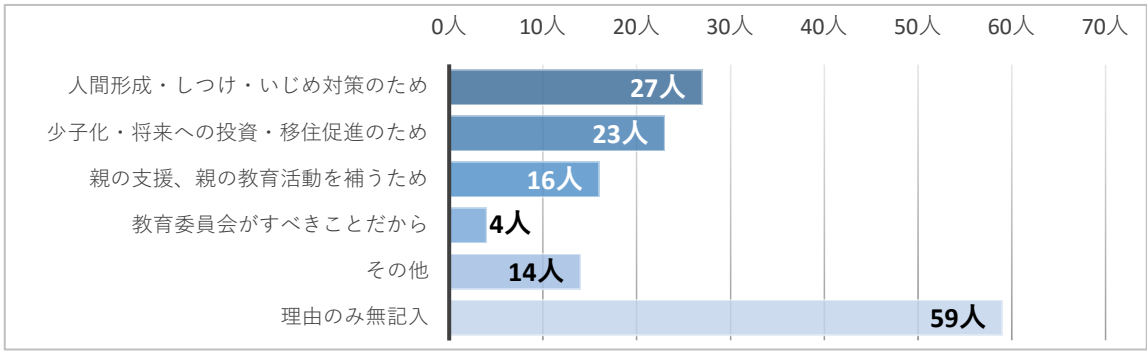
問4 市に期待する今後の取組 〈1つを選択〉



	回答者
① 家庭教育・子育て	142人
② 青少年教育	231人
③ 成人教育	60人
④ 高齢者教育	151人
⑤ 芸術・文化活動	87人
⑥ 生きがいづくりのスポーツ活動	130人
⑦ 競技力向上のスポーツ活動	41人
⑧ 本や読書の活動	16人
⑨ 生涯にわたる学習活動	172人
無回答	41人
計	1,071人

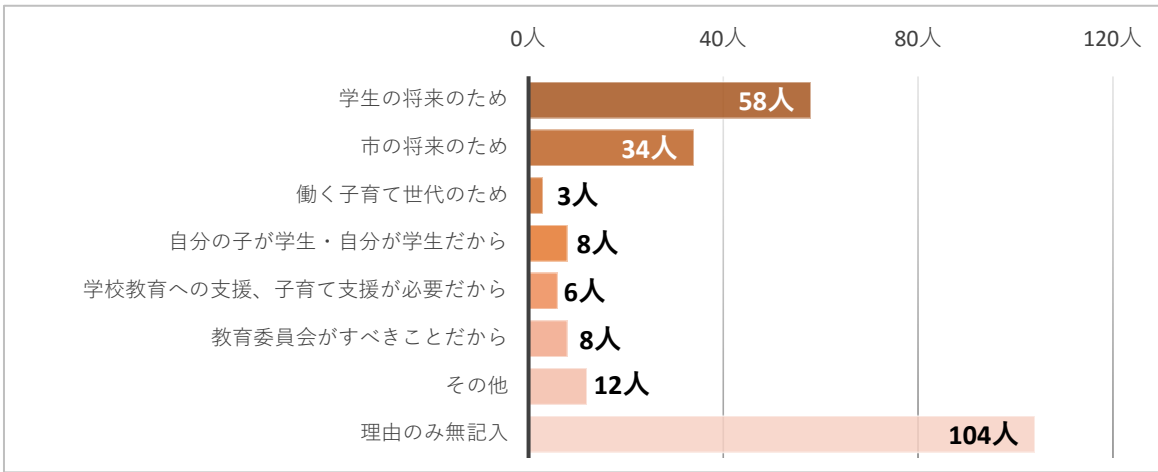
〈問4 選んだ理由について〉

① 小学校入学前の子どものための活動（家庭教育・子育て）



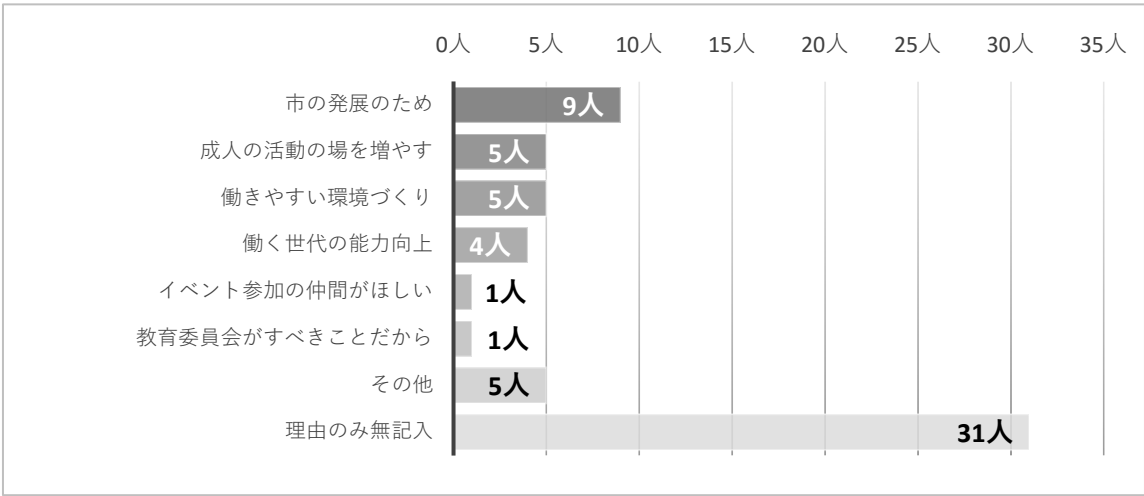
①については、「就学前の学習活動がその後の人間形成に大きな影響を与えるから」など、将来のために子どもへの教育活動を充実させるべきだという意見が多かったです。

② 小・中・高・大学生のための活動（青少年教育）



②については、「学生時代の経験はその後の人生に大きな影響を与えるから」など、社会よりも教育を受ける学生個人のために、学生の教育活動を充実させるべきだという声が多く寄せられました。

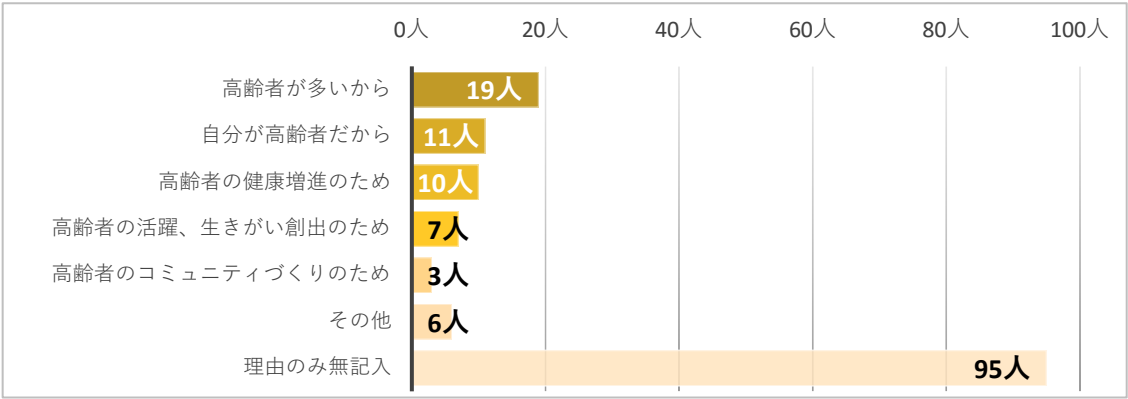
③ 働く世代の活動（成人教育）



③については、市の発展のために必要との意見や、「成人の活動の場が足りない」、「働く世代の能力向上のための活動をしてほしい」など様々な意見をいただきました。

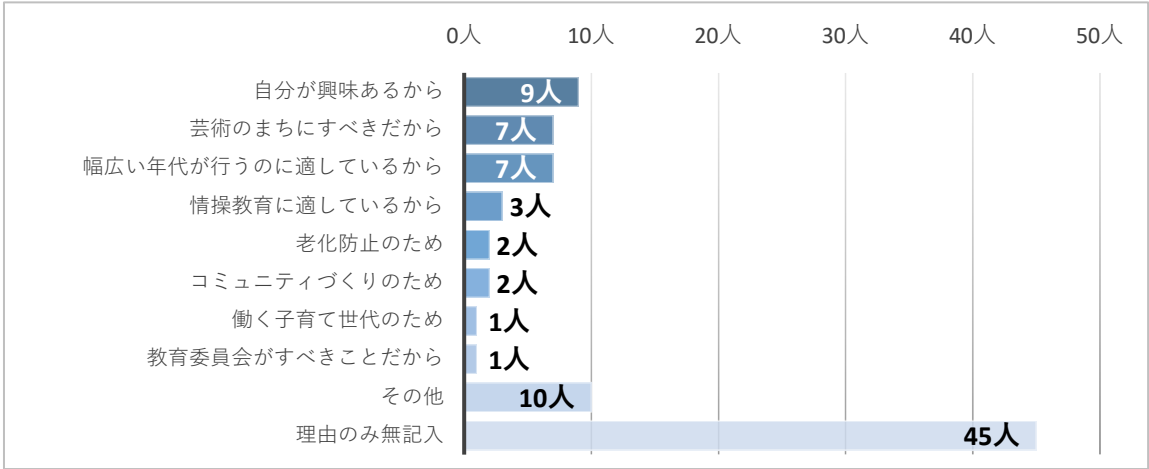
〈問4 選んだ理由について〉

④ 高齢者の活動（高齢者教育）



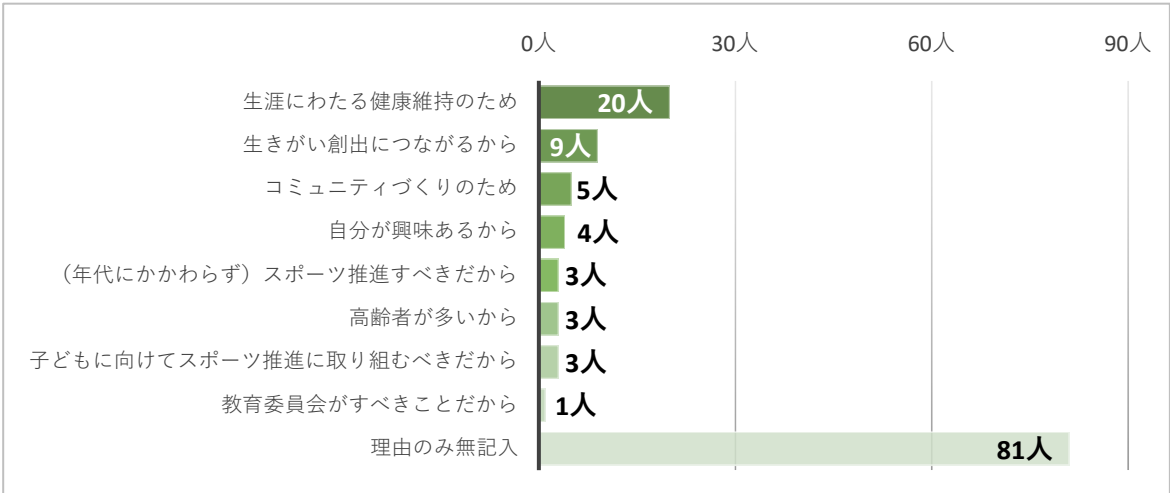
④については、「高齢者が多いから高齢者に係る事業を充実させるべき」というシンプルな意見が多かったです。

⑤ 芸術・文化活動



⑤については、「自分が好きだから広めてほしい」というような意見が多かったです。

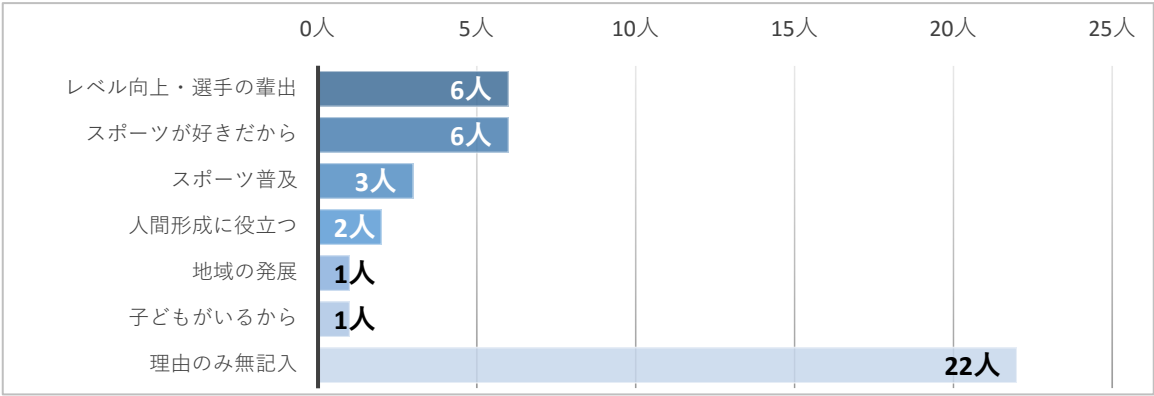
⑥ 生きがいづくりのためのスポーツ活動



⑥については、生涯にわたり続けるようなスポーツ推進に力を入れるべきという意見が多かったです。

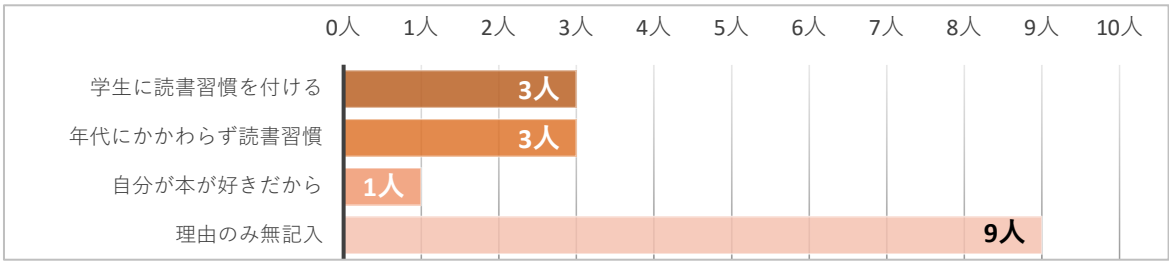
〈問 4 選んだ理由について〉

⑦ 競技力向上のためのスポーツ活動



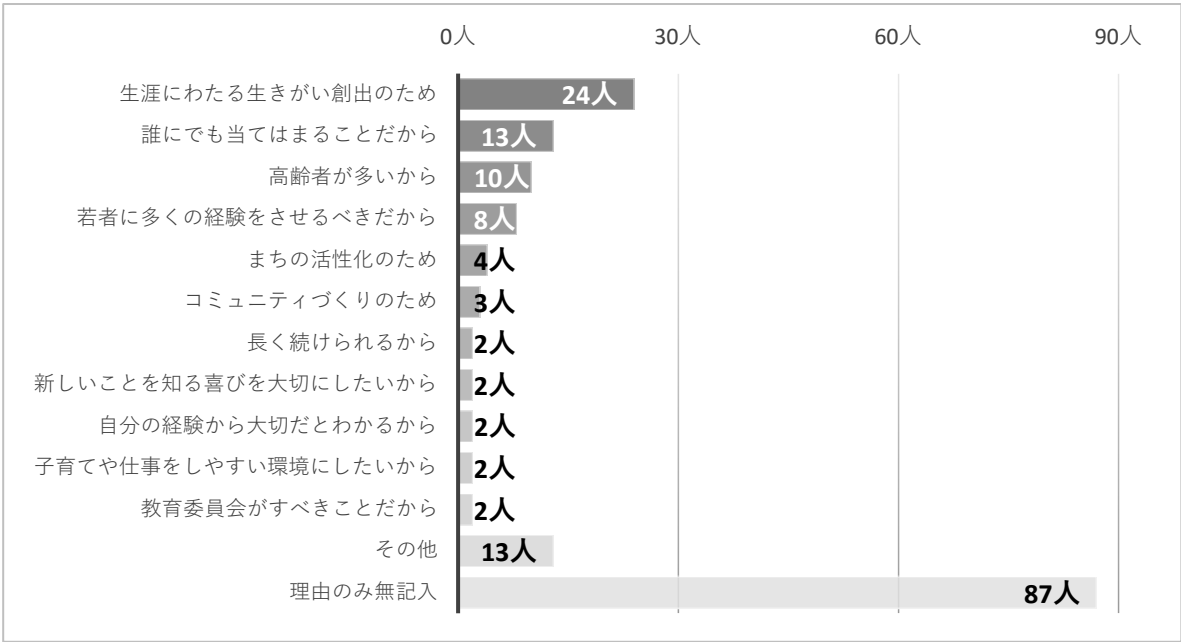
⑦については、スポーツの技術向上を図る声のみならず、人間形成や地域の発展に、スポーツ振興を図るべきだという声も寄せられました。

⑧ 本や読書の活動



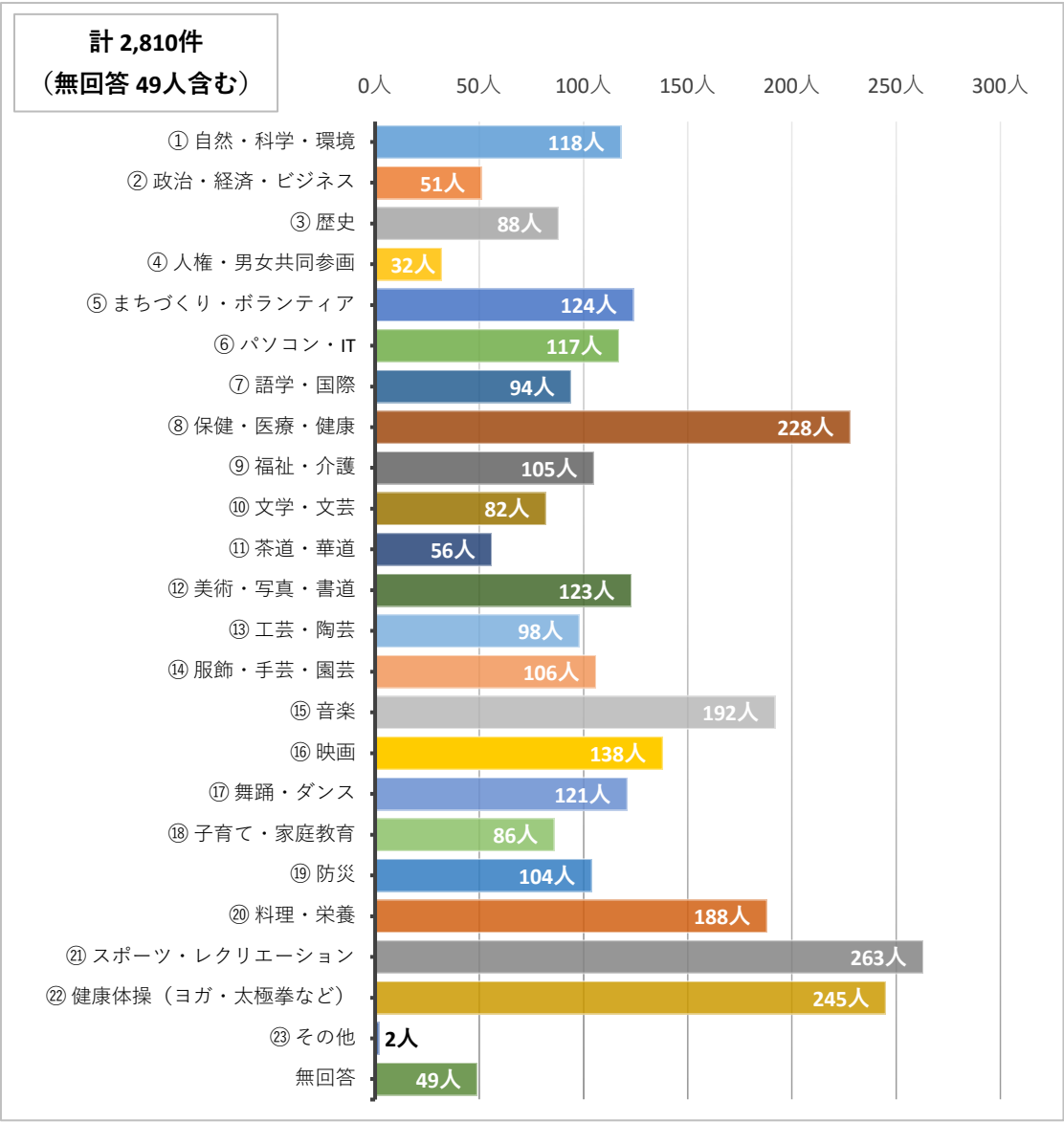
⑧については、読書離れが進んでいるから読書を推進すべきという声が多かったです。

⑨ 生涯にわたる学習活動



⑨については、生涯学習が大切だという声や、年齢や性別などにかかわらず多くの人が興味を持てるものだからという声が多く寄せられました。

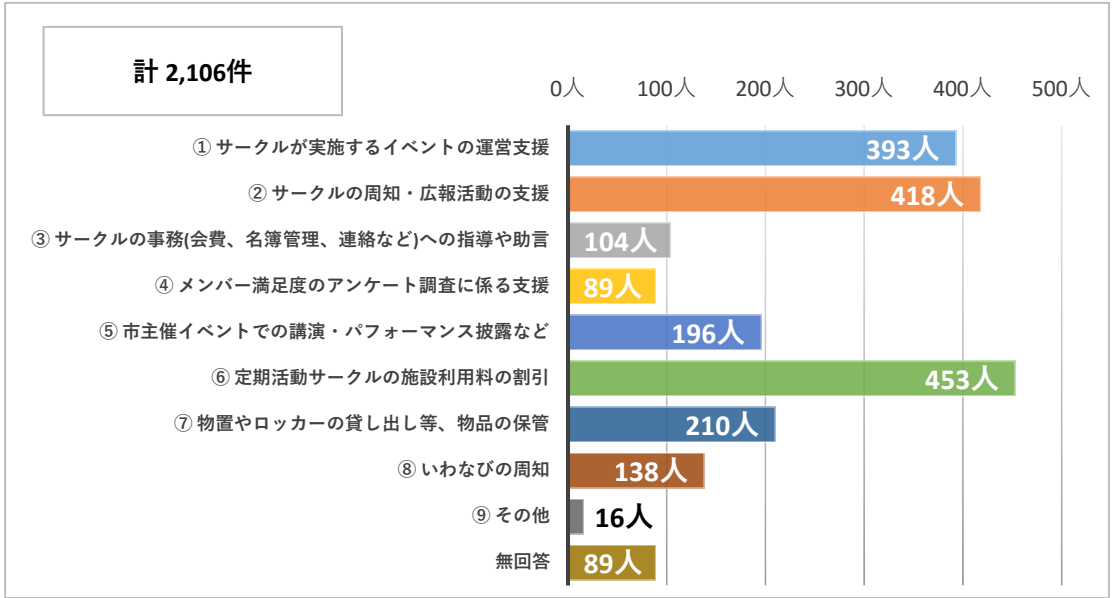
問5 参加したい研修 〈複数回答可〉



㉓ その他・・・「子ども食堂」、「郷土史」

研修内容	回答者数
① 自然・科学・環境	118人
② 政治・経済・ビジネス	51人
③ 歴史	88人
④ 人権・男女共同参画	32人
⑤ まちづくり・ボランティア	124人
⑥ パソコン・IT	117人
⑦ 語学・国際	94人
⑧ 保健・医療・健康	228人
⑨ 福祉・介護	105人
⑩ 文学・文芸	82人
⑪ 茶道・華道	56人
⑫ 美術・写真・書道	123人
⑬ 工芸・陶芸	98人
⑭ 服飾・手芸・園芸	106人
⑮ 音楽	192人
⑯ 映画	138人
⑰ 舞踊・ダンス	121人
⑱ 子育て・家庭教育	86人
⑲ 防災	104人
⑳ 料理・栄養	188人
㉑ スポーツ・レクリエーション	263人
㉒ 健康体操（ヨガ・太極拳など）	245人
㉓ その他	2人
無回答	49人
計	2,810件

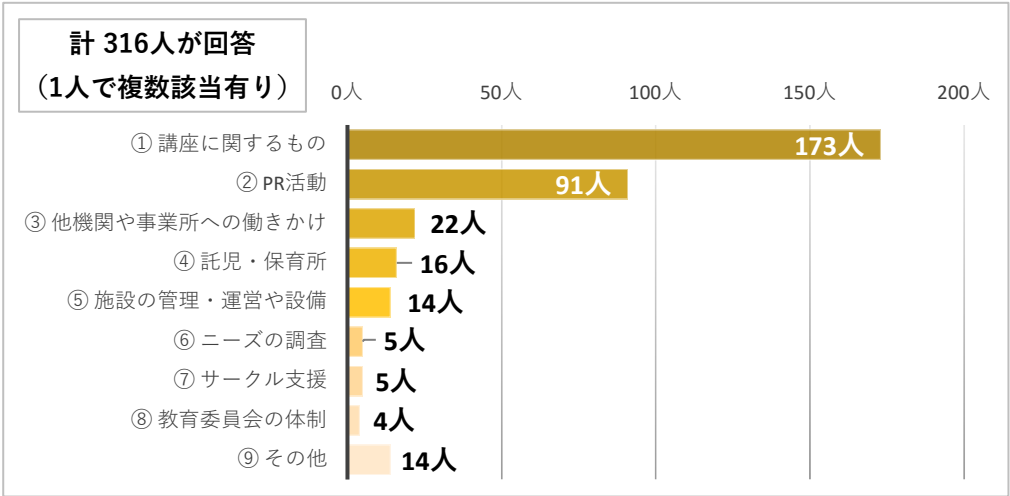
問6 市に求めるサークル支援 〈3つまで選択〉



⑨ その他・・・「障がい者への配慮が不十分」、「サークル活動で健康ポイントを付与する」、「いわなびの施設予約をしやすいとする」、「指導者の育成」など

支援内容	回答者数
① サークルが実施するイベントの運営支援	393人
② サークルの周知・広報活動の支援	418人
③ サークルの事務(会費、名簿管理、連絡など)への指導や助言	104人
④ メンバー満足度のアンケート調査に係る支援	89人
⑤ 市主催イベントでの講演・パフォーマンス披露など	196人
⑥ 定期活動サークルの施設利用料の割引	453人
⑦ 物置やロッカーの貸し出し等、物品の保管	210人
⑧ いわなびの周知	138人
⑨ その他	16人
無回答	89人
計	2,106人

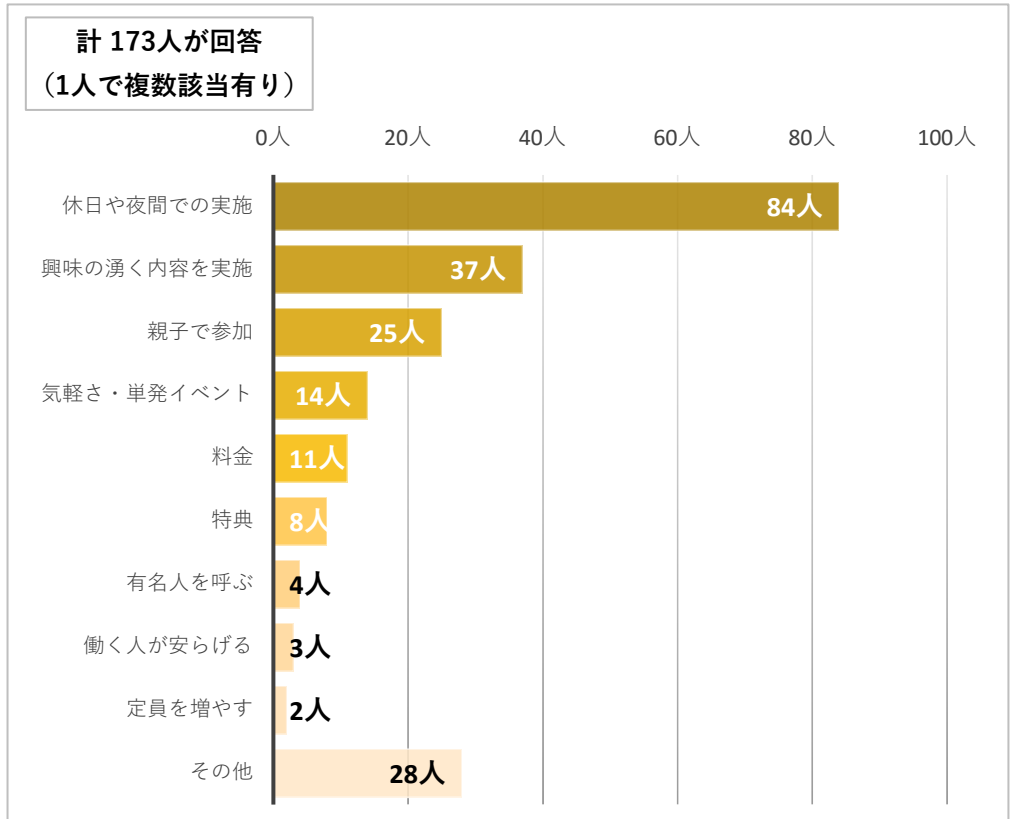
問7 勤労者層の活動に必要なこと 〈自由記載〉



⑨その他・・・「根本的に岩見沢市の人口が減少していることに問題がある」など

〈問7 詳細について〉

① 講座に関するもの



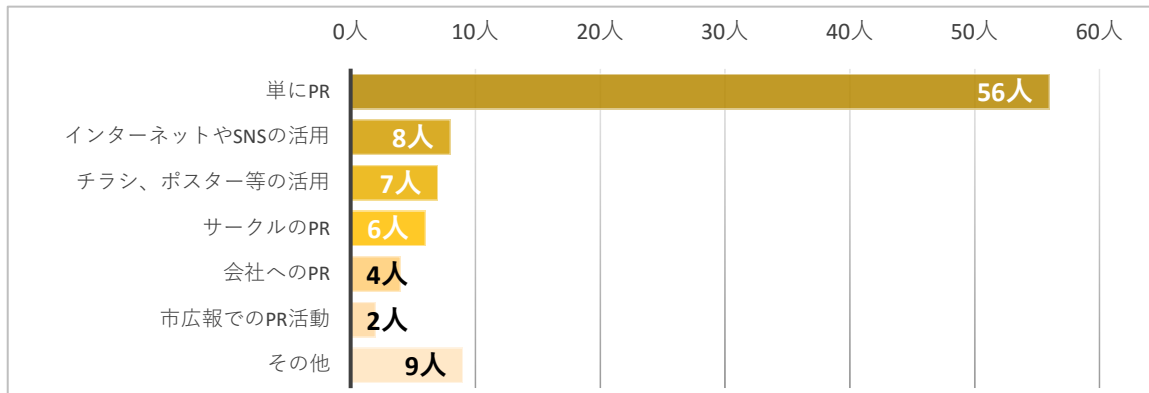
講座に関するものについて一番多くご意見が寄せられ、特に時間帯や休日での開催についての意見が多かったです。

その他については、「会社で役立つ講座」、「交流会や飲み会の実施」、「『会社vs会社』のようなイベント」、「自己啓発的な内容」、「出張講座の実施」などがありました。

① 講座に関するもの		173人
休日や夜間での実施		84人
興味の湧く内容を実施		37人
親子で参加		25人
気軽さ・単発イベント		14人
料金		11人
特典		8人
有名人を呼ぶ		4人
働く人が安らげる		3人
定員を増やす		2人
その他		28人
② PR活動		91人
単にPR		56人
インターネットやSNSの活用		8人
チラシ、ポスター等の活用		7人
サークルのPR		6人
会社へのPR		4人
市広報でのPR活動		2人
その他		9人
③ 他機関や事業所への働きかけ		22人
市内事業所に理解を求める		12人
労働時間短縮、働き方改革		9人
賃金の向上		5人
青年会議所		1人
④ 託児・保育所		16人
⑤ 施設の管理・運営や設備		14人
いわなび運営		9人
駐車場		4人
その他		2人
⑥ ニーズの調査		5人
⑦ サークル支援		5人
⑧ 教育委員会の体制		4人
⑨ その他		14人

〈問7 詳細について〉

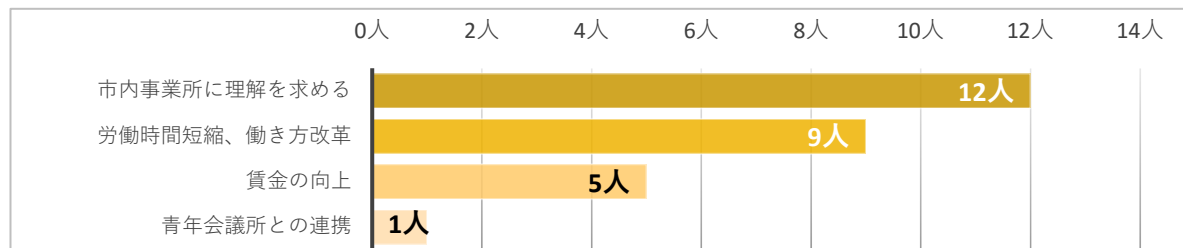
② PR活動



PR活動については、「色々やっているのに周知が足りない」、「インターネットやSNSを活用してほしい」など、多くのご意見をいただきました。

その他については、「いわなび自体のPR」、「社会に対する啓発活動」、「高齢者に絞ってPRする」などの意見がありました。

③ 他機関や事業所への働きかけ

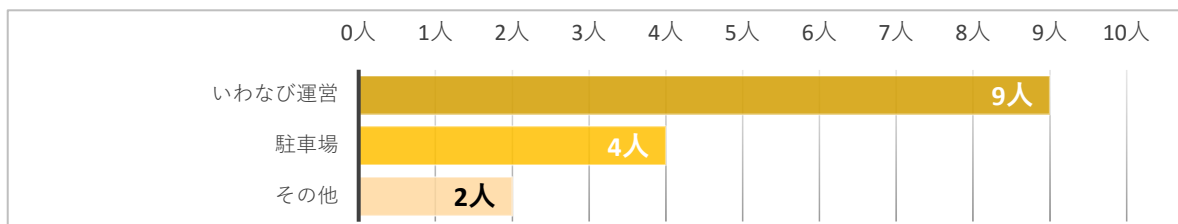


「事業所の協力を図る」や、「優先的に仕事を休めるように事業所に理解を求めることが必要」という声も多く寄せられました。

また、勤労者層は、仕事や子育てのほか、金銭的にも余裕のない方が多く、「仕事や子育てはイベント参加より大切で、優先すべきだからしょうがない」という意見もありました。

※ ④ 託児・保育所については、「子どもを預けられるところがない」、「託児付き講座の実施」など、みなさんから同様のご意見をいただきました。

⑤ 施設の管理・運営



特に「駐車場」については、多くのご意見をいただきました。その他、「午後9時30分以降も運営してほしい」、「サークル利用者のアンケートを実施してほしい」、「障がい者への配慮が足りない」など多くのご意見をいただきました。

⑥、⑦、⑧については、人数が少ないため説明を省略します。

第 2 期 岩見沢市社会教育中期計画

〔令和2年度～令和6年度〕

令和2年 3月

発 行 岩見沢市教育委員会
担 当 生涯学習・文化・スポーツ振興課 学習活動支援係
岩見沢市4条西1丁目3番地4 生涯学習センター
電 話 (0126) 23-9236
FAX (0126) 23-9235